

日本基督教団 東中国教区ニュース

NEWS

東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒170-0045
倉敷市鶴形一丁目五
倉敷キリスト会館内
TEL 086-422-1780

説教「信じて生きる喜び」

「ローマの信徒への手紙」

四章十三〜二五節

蕃山町教会 岩住啓太
(4月より都城城南教会)



イースターおめでとうございます。救いは、イエスさまの十字架の死で終わったのではなく、復活をもって私たちに信じられるものとなりました。誰からも理解されず死なれていったイエスさまの救いの業は、この復活によって高らかに宣言されなっています。「あなたの罪は赦

された」という救いの約束を信じて生きるようになるためです。

どれだけ素晴らしい約束があっても信じられなければ救いになりません。旧約聖書においてはアブラハムが神さまの約束を聞いていましたが、彼は「自分の子孫が増やされる」という約束を直ぐに信じられませんでした。子どものないまま自分が老いていたからです。旧約聖書では、その約束を信じられないアブラハムと神さまとのやりとりが描かれています。そんな彼に神さまは「夜空の星」を見せ、「この星の数ほどにあなたの子孫を増やす」と約束されたのです。そこで彼はようやく信じることができました。聖書は、そのアブラハムのことを「義」とされた、つまり神さまの救いに生きるものとされた」と語っています。

約束を信じて生きることが大切です。ある宣教師は「福音を信じないで生きるのは、庭に莫大な財産が埋まっているという友人の言葉を信じずに貧しさに苦しむ人に似ている」と言いました。貧しさ

目次

説教「信じて生きる喜び」	1
第二回宣教会議報告	2
宣教師強化推進に関する件	3
按手札式	4
二・二一平和集会報告	5
まびくらの催しと現在	6
教会紹介「湖山教会」	7
「こくにちは」のお部屋・編集後記	8

に苦しみ死んでいった父親がいたが、その息子は、父親の友人の言葉を信じて、庭を掘り起こし莫大な財産を得ることができた。父親も息子も財産が既に与えられている点では同じでしたが、大きな違いは、友人の言葉を信じて庭を掘り起こしたかどうかだった。それこそが、苦しみながら死んでいった父と、安心のうちに生きられた息子の違いとなった、と言うのです。

すでに庭に財産が埋められていたように、救いのための十字架の死はすでに成し遂げられました。しかし、それを聞くだけでなく信じて生きることこそが、救いです。私たちもまた、アブラハムが星を「見て」信じたように、復活のイエスさまを「見て」信じた人々の言葉をもって信じるものとされました。そして、復活を祝い続ける私たち教会の声こそが救いの約束の宣言となります。この春もまた、死で終わらない命の訪れを喜び伝えていきましょう。

第二回宣教会議報告

教区副議長 服部 修



玉野教会での宣教会議

二〇二〇年三月二日(月)に、玉野教会を会場に第二回宣教会議が開催された。正確にはこの会議は昨年度教区総会議案第十一号の実質化のために開催されることもあり、宣教構想懇談会として開催され、通常の宣教会議メンバーに加えて各地区から代表者二名を送っていただき、あるいは自主参加を認めた上での開催となった。新型コロナウイルス拡散の心配もあったが、時間を短縮する形で開催することとした。

はじめに奥田師から「みんなの伝道協議会」に参加しての報告を受けた。その報告の中で、「共同牧会」という考え方が、最初からこうあるべきという形が存在しているのではなく、教師たちによって作り上げられて行くもの、との報告や、一つの教会が四つの会堂という形式ではあるが、実際に訪ねてみると四つの教会という印象を持った、という報告など、考えさせられる報告を聞くことができた。

奥田師の報告に引き続いて、各地区からの反応を聞いた。これは第十一号議案の具体化のために作成された「教会強化特別資金運用規程改定案」をもって常置委員が各地区を訪問し懇談した報告である。それぞれの地区で様々な受け止めがなされたことを踏まえて

改定案の検討がなされなければならないことを思われる報告となった。

各地区からの報告を受けて、自由に懇談する時間をとった。主な意見を挙げると、この改定案で本当に必要としているところに支援が届くだろうか、という心配の声があり、反対に、この改定案の趣旨に従って進めるのであればむしろそれぞれの教会が成り立たなくなるのではないか、という声もあった。また制度設計の考え方として、最初から縛る方向性と緩める方向性があるのの後者に立って動きやすいもの、実勢を見ながら再検討を重ねていく方が良いのではないか、といった意見も出された。

基本的にこの改定案が、教区の教会と宣教の強化のためであるということがどこまで共有され、それが文言となるかが重要であることを確認させられた。その他様々な意見が出されたが、それらを踏まえて常置委員会で具体案を検討することとなった。



「東中国教区の宣教強化推進に関する件（仮）」議案に結実するまで

教区書記 中井大介

来たる教区総会では「東中国教区の宣教強化推進に関する件（仮）」議案が上程されます。これは2019年度第68回東中国教区総会議案第11号「東中国教区の宣教強化に関する件」の可決を受けて「教会強化特別資金運用規程デザイン」に基づく教会強化特別資金運用規程の改定と運用を含む議案として提案されるものです。

その前年には2018年度第67回東中国教区総会の議案第10号「東中国教区の宣教強化実質化に関する件」の中で「東中国教区2017年度宣教会議声明」が提示され、次のような主旨が確認されています。

- 1) 私たちのキリスト伝道は宣教概念に包括される教會的使命であり、キリストの福音を証しすることを宣教の目的とする。
- 2) 教区にある教会は多様な宣教的姿勢をもって活動しており、それぞれの教会の存在そのものが賜物であると認める。
- 3) 教区の教会の多くは礼拝出席者20名以下の規模であり、一教職が複数教会の宣教にたずさわっている場合もある。これは、これまでに教区内に宣教拠点ができるだけ多く確保してきた豊かな恵みであると理解する。
- 4) 教区は、この恵みである教会を支援するために具体的施策の実施を進める。

この宣教会議声明は2016年度宣教部伝道委員会内にある教会強化特別資金運営委員会から、当該資金の運用についての申請責任の所在を「地区長から地区全体へ」移行することと、「漫然とした形式審査を脱して教区の宣教的観点から申請教会を応援」できるように組織の役割を改定する必要があることを常置委員会に提起し、これを受けて開催された宣教会議の中で取り纏められたもので、後に教会強化特別資金運用規程の改定へと向かう議論に発展していくものでした。同年2016年度には東中国教区は教団伝道資金をもとにして「礼拝サポート」事業と「教会支援教師派遣」事業が開始されています。この2つの事業に

よって兼務・代務を担う教師への援助と、休むに休めない教師の精神的負担の軽減、つまり教師の働きに対する教区の支援が始まったのです。

そもそも教会強化特別資金の改定、礼拝サポート事業、教会支援教師派遣事業は2014年度に審議未了廃案となった「中期宣教計画」に原型をもっています。これは常置委員会のもとにプロジェクトチームが立ち上げられ、2009年から2013年にかけて5ヵ年計画で検討を積み重ねてできた成果物です。その発端に2009年度東中国教区総会の中で宮川経宣副議長（当時）による講演があります。そこでは、教会はこのまま自己変革なく手をこまねいていれば現住陪餐会員が2011年度以降ゼロになる教会が次々と現れるとの内容でした。教区総会はキリストの福音を宣教し続けるための知恵と祈りの結集を余儀なくされ、教会の自己精査と教會的使命の再認識を行う作業を始めていくのです。その成果である「中期宣教計画」は東中国教区において計画通りの実施とはなりませんでした。これを継承した常置委員会は、そこで顧みられ精査された提案を実質化していく作業を続けてきました。

2020年度の東中国教区総会で「東中国教区の宣教強化推進に関する件（仮）」議案が取り上げられるまでには、以上のような議論の積み重ねが、東中国教区の信徒と教師および常置委員の構成員が次々と代わる中でバトンリレーのように継続されてきたのです。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ」の御言葉のように議論に参加した人は次々と代わりはしましたが、ひとつの体と多くの部分からなる教会のように、教区は議論を少しずつ結実させてきたのです。主の体である教会が世に生きて働くために知恵と祈りを合わせてきたドラマが東中国教区には存在しています。そして、現在の私たちもまた、このドラマへの参与者であるに違いないのです。

神の国建設という宣教の業は東中国教区において、神の賜物であるそれぞれの教会と、そこに集まる信仰の群れを起点に広がっていくことを、10年以上に亘って積み重ねてきた議論を通して、今も証ししていると信じています。

</

二・一一平和集会報告

△鳥取県東部地区▽

「象徴天皇制と信教の自由」

△ハ・ハメッセーがあらわにしたもの△

鳥取教会 橋原正彦

開催日：二〇二〇年二月十一日、参加者：二十名

二〇一九年、「天皇フィバー」が吹き荒れた。象徴天皇制の危険性は理屈ではなくムードである点との指摘に納得。明治政府以降、支配者は天皇という神の下に国民統治を画策。天皇から委託された政府が政治を司り天皇を実質的統治者とする。象徴天皇制は天皇の権限を剥奪。全権掌握する現政府は明治政府より危険との見解にはっとさせられた。

皇室神道の大祭司の務めは半神半人たる天皇だけのもの。平成天皇はハ・ハメッセーで大祭司を退く意向を示した。これは天皇の神宣言。一方の公務を退く意向は人間宣言との解き明かしに驚愕。

天皇を神とし神の名で国民を支配するのは宗教の暴力性。ローマ支配下でキリスト教徒は力による支配者ではなく十字架のイエスを救い主と仰いだ。主権者たる国民が

天皇に委託した国事行為を奪還する日の到来に希望を託す。象徴天皇制の暴力性を注視しつつクリスチャンとして在りたいとの訴えに一同同意し、各々の現場に散らされた。



講師の小林聖牧師

△岡山県東部地区中部地区合同▽

「天皇の代替わりと私たちキリスト教会」

教区社会委員会委員長 延藤 好英

二〇一九年度は「天皇の代替わり」の年なので、教区社会委員会の「平和集会」は、岡山キリスト者平和の会、カトリック岡山鳥取地区（平和推進）、岡山ナザレン教会、岡山バプテスト教会、公益財団法人YMC Aせとうち、岡山県東部地区が主催する「二・一一集会」に合流させていただいた。それに岡山県中部地区も合流する形となった。

二〇二〇年二月十一日に、日本基督教団岡山教会を会場に開催された。講師は兵庫教区主事の加藤俊英先生。演題は「天

皇の代替わりと私たちキリスト教会」。教派を越えて五十五人の参加であった。一九四〇年十月十七日青山学院を会場に開催された「皇紀二千六百年奉祝全国基督教信徒大会」には約三万人が参加した。教団の初代統理となる富田満牧師は開会の辞において「私共は実にこの二千六百年の歴史の大なる感謝を神に捧げなければならぬ」と述べた。その翌年に日本基督教団は設立された、とのことである。



講師の加藤俊英師と集会の様子

西日本豪雨水害

まびくら報告

「まびくらの催しと現在」

まびくら運営委員 渡辺 真一

△おもちつき▽

二〇二〇年の明け一月十八日、「まびくら」には多くの方々が集まり賑わいでいました。この日、「もちつき」をメインイベントとして、こどものための企画や腹話術師のパフォーマンスなどが催されました。このために、教区内の方々をはじめ、教団議長や兵庫教区の方々、岡キ災や有志団体のメンバーが奉仕のために駆けつけてくださいました。予想以上に多くの地元の方々が足を運んでくださり、当日延べ三百人が「まびくら」でひと時を共にできる恵み豊かな時が備えられました。



男性陣、次々と杵を手に

災害が起こった場で腰を据えて力を尽くしてくださる現場スタッフは、その地に生きる方々と関係を築いて歩んで来られています。この日、次々と来訪される方々と温かく交わるスタッフ方の姿をこの目で見て働きの尊さを改めて確信しました。人が人とながりまた他の人がつ



つきたのおもちをその場で

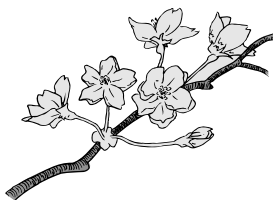


こども企画・腹話術の催し

ながっていく。「まびくら」が、被災地に生きる方々の関係の広がりの一助となり、愛の働きが展開されていくことを願っています。

△まびくらの現在▽

さて、その後新型コロナウイルスの感染拡大が世界的な問題となつてまいりました。人から人へと感染していく脅威は、人と人とのつながりを大切に築いていこうと願う「まびくら」の活動にも多大な影響をもたらしています。まびくら運営委員会では、新型コロナウイルスへの対応策として、五月六日まで休館する（三月三十一日現在の判断）ことを決定しました。多くの方々が集う場となり様々な活動が展開されていた中で、休館は苦渋の決断であります。今後の状況によって開館の時期を調整することとなりますが、ご理解をいただければと思っています。なにより被災地に生きる方々のことを憶えて祈り支えていただければと願っています。



教会紹介

・湖山教会・

牧師 木谷 実



新会堂の外観

湖山教会は一九七〇年に四人の女性たちの祈禱会から始まりました。二〇二〇年はそれからちょうど七〇年を迎えます。そんな節目の時に私たちは新会堂が与えられました。これは十年以上前から教会

全体で協議して進めてきた事業で、私の前任である森嶋牧師の時代に着工直前まで勧められたものです。

工事は六月末に始まりました。仮牧師館が急に必要になったり、想定外の出費があったりと頭を悩ませることもありました。しかし全てが良いように導かれていくものです。施工業者の方が真心を込めて素晴らしい建物を建ててくれました。何よりも神様が工事を守ってくださり、本当に良い器が与えられました。会堂は人間の力だけで建つのではない、ということを感じております。

工事が終わってみて一番良かったのは、建築に際して誰も教会を離れてしまうことがなかったということです。「建築をすれば一人か二人は教会から離れてしまう」という言葉を先輩牧師に聞いたことがあります。誰も離れてしまうことなく、アドベントと共に新会堂での礼拝を始められたことはこのうえない喜びでした。また、教区内の皆様からも献金とお祈りをいただき、それが大きな励ましとなりました。本当にありがとうございます。

神様と人々に支えられて与えられました新会堂は、一階が教会で二階が牧師館になっています。一階には台所や母子室もありますので、地域の子どもたちと何か楽しい企画ができればと考えています。

三月二十二日は献堂式と七十周年記念式典が予定されていました。しかし新型コロナウイルスの感染防止と拡大を防ぐため、中止にせざるを得ない状況になってしまいました。せっかく教区内外の皆さんと共に献堂を共に祝っていた良かったですのですが本当に残念です。いろんな騒ぎが収まりましたら、ぜひ新会堂を見にいらしてください。お待ちしております。



湖山教会の礼拝堂

「こんにちは」のお部屋

「思い出のカニ」

琴浦教会牧師 川上幹太

聖書「あなたは、『自分の力と手の働きで、この富を築いた』などと考えてはならない。むしろ、あなたの神、主を思い起こしなさい。」(申命記八章十七ー十八節)

こんにちは。一部ではカニ牧師と言われている川上幹太です。行く先々の教会でカニと出会い、飼育しています。これは教会とはまったく関係ない趣味と思われるでしょうけれど、その出会いはしっかり教会と関係しています。私が小学生の頃、牧師である父はよく牧師仲間と海釣りに出かけ、私も一緒に連れて行ってもらいました。そ

の頃は京都にいましたが、海のある福井県小浜市へ行ったのが記憶に残る最初の釣り体験です。船着き場でしばらくは普通に魚釣りをしていました。隣で釣っていた人がいきなり大物のイシガニを釣り上げ、それを私にプレゼントしてくれたのです。おそらく食材としてくださったのですが、私は生きている姿を見ていたかったのです。飼育しようと思いました。海のカニの飼いがわからなかったので一日くらいしか生きていませんでしたが。それまで小川のサワガニしか知らなかった私にとって、初めて見た生きた海のカニは衝撃的で、色鮮やかで見事な造形をしており、こんな美しい姿の生き物がいるものかと思ったものです。しかしそれから長い間、イシガニと再会する機会はありませんでした。今、児島に来て一年が経ちますが、実はイシガニがよく捕れるということがわかり、昨年の秋頃に教会から歩いて十分の港で初の釣果を

上げました。他にも生活圏内で大小多くのカニと出会い、共に生活しているものもおります。神は私などにもつたいないほどの配慮をされている、そのありがたみを感じています。



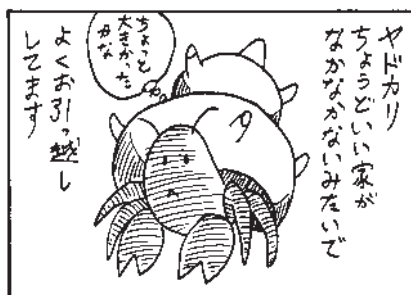
沿岸部に生息するイシガニ

編集後記

今年もイースターの喜びの時を迎えることができ感謝です。今号は、これまで東中国教区で一緒に四月より都城城南教会に赴任される岩住牧師の言葉を巻頭言にさせていただきます。また東中国教区の宣教に関する協議も引き続き焦点を当てさせていただきます。ぜひご覧いただければと思います。ただ、予想もしない事が起きるとはこのことで、編集作業のさなかに新型コロナウイルス感染拡大の出来事が世界的問題となりました。教会も多大な影響を受ける状況となっています。少しでも早い終息の時を、安心して教会での礼拝と交わりができる時を切実に願っています。

(W)

共に生きる命①



★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時
電話番号 ○九〇―一三三〇―一八七三〇